

「女性ゼロ」を知りつつも消防へ

新井士長が生まれ育ったのは、海なし県の埼玉県。しかし、祖父母が離島に住んでいたため海で遊ぶ機会が多く、海が大好きと話してくれました。

学生時代を千葉県で過ごし、就職に伴い千葉県から離れて生活をするも「やっぱり千葉がいい」ということで長生地域に移り住んだそうです。

親から地元に住むよう勧められた時、千葉に住み続ける大義名分を…という気持ちで申し込み、試験直前に長生消防は女性がないと知ったものの『とりあえず受けてみよう』と気軽に試験を受けたと、笑いながら教えてくれました。



大好きなもの

そんな活発な新井士長に好きなものを聞いてみたところ、すぐに返ってきた答えは「パンダ」。どんな体勢でもダラダラと過ごしている姿がたまらないそうです。

「パンダを見ると思い出す」と言われたことも何度かあり、気づいたら家の中にもパンダグッズがあふれていたと話す新井士長のデスクにも…パンダがあふれていました。



長生消防で初の女性消防士として

初めての女性消防士として採用された新井士長。男性しかない職場に飛び込んできた当時、困ったことは「みんなが気を使いきてくれたこと」。気軽に話してくる人も少なく、男性職員が自分の対応に困っている様子を強く感じ、互いに気を使ってしまっていたようです。なるべく多くの職員と関わり、自分を知ってもらおうようにしたと話していました。



また、当時は環境があまり整っておらず、女性が泊まれる庁舎を建設する計画もありませんでした。そのため、初めは予防課に配属され、後に警防課というように日勤勤務をしています。現場に出ている同期を見て、もどかしさを感じる日々だったようです。今では『自分だからできること』を見つけ、住民から「女性がいてくれて良かった」という声をいただくなど、女性ならではの気付きや気配りを発揮してくれています。

今では、自分が現場で活躍したい気持ちより、後に続く女性に現場で活躍してもらいたい気持ちが強いそうです。



消防を目指す女性へ

最後に、消防を目指す女性へのメッセージをお願いします。

「消防は男の仕事」「女には無理」。そんなことを言われた時期もありました。もちろんパワーやスタミナなど、男性に劣る部分は多くあります。それでも、男性が多い職場だからこそ、自分にしか気付けないこともあったりして、女性の方が優れている部分も多くあると感じます。

最近では女性の消防職員も増えてきて、少しずつではありますが女性も活躍できる職業になってきています。消防職員を目指している女性の方は、たくさんの不安を抱えていると思います。しかし、同じ不安を抱えてきた女性消防職員は全国にたくさんいて、必ず味方になってくれます。

目指す理由は何でもいいと思います。思い通りにならないこともたくさんあります。でもそれは、女性に限ったことではありません。そこで自分に何ができるのかということを考え、積極的に動くことが重要です。どんなものでも構わないので、自分の中で『誰にも負けないもの』をしっかりと持ち、あきらめずに行動してください。一緒に活躍できる日を待っています。

たくさんの仕事を経験し、最終的に消防という仕事を選んだ新井士長。長生消防で初めての女性消防士として採用され、苦勞したことも多かったことと思います。これからも長生消防女性消防士のパイオニアとしての活躍を期待しています。

